えんがわ

2020 年 1 月 10 日発行
出雲市古志町 344
社会福祉法人ことぶき福祉会
『笑庵ことぶき』
発行責任者：施設長　加田　誠
TEL:(0853)25-7701
FAX:(0853)25-7702
Mail:shouan@carol.ocn.ne.jp

新年あけましておめでとうございます。

旧年中は格別のご厚情を賜り、誠にありがとうございました。また今年も「福祉三原則」の実践の中からグループホーム入居者、デイサービス利用者の方々が人として生きている喜びを感じ、納得いく人生を過ごしてもらうようにしていきたいと思います。また、小規模だからこそ運営できている従来どおりの入所、デイサービス、ショートステイ、配食に限らず、誰かが困った時や望まれるサービスが必要な時などは制度や介護保険に捉われず、臨機応変に柔軟な対応ができるようにしていきたいと思います。

笑庵ではお年寄りさんが生活の主体であると感じています。その中で皆さんが健康で安全に暮らしてもらいながら生活は自由で比較的に管理や規制の少ない「生活の場」であると思います。職員はその生活空間の中から声を聞き、行きたい場所や食べたい物などすぐに対応し喜んでもらえるように実践しています。しかし、すべての希望を叶えることはできないこともありますし、どうしたら良いか試行錯誤したり、葛藤することもありました。

私たちもそうですが、価値観は人それぞれ違います。感じ方や受け止め方、思いを伝える方法も様々だと思います。自分でできる事、したい事してほしい事など本当に一人一人が何を望んでいるか、どうしたら喜ばれ、楽しんでもらえるかを気づき考えることが大切であり、その中でその人に合った話し方や距離感を保ち信頼関係を築いていくことが私たちの専門職としての関わり方だと思います。小規模だからこそお年寄りさんと関わる時間も増え理解関係も深まっているのだと思います。これからも私たちは本当に求められる小規模多機能の役割りを担っていきたいと思いますので、些細な事でも遠慮なくご相談ください。

本年も皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。今後もご指導、ご鞭撻のほど宜しく申し上げます。

2013年7月、笑庵ことぶきに入居されたAさん。曲がったことや嘘は嫌いだとはっきり言われる方で、私たち職員に常に自分の意思をきちんと伝えられます。その一方で、人への感謝の気持ちは忘れず、気持ちを込めて「だんだん」「ありがとう」と言葉にされます。

ここがどこか分からず混乱されたり、夜中に「帰らないけん」と起きてこられることもありました。しかしそれらは決まって、ご飯の用意や家族はどうしているか、会合はどうなっているかなど家の中のことから外のことまでいろんなことへの心配からでした。さぞかしたくさん世話を焼き、私たちの知らない苦労があったのだろうと思います。

Aさんは27才の若さで、戦争によって夫を亡くされています。一人で3人の子供を育てられ、その子供のうち一人は事故で亡くされたそうです。以前、その人生を振り返り「わたしはほんに運が悪かった」と言われたことがあります。4年ほど前のことになりますが、このえんがわにてそのことを書かせていただきました。「いろんな苦労をしたけど子供の成長ほどは楽しみだったよ」と穏やかな表情で話され、そして「あんたも頑張りなさいよ」と言われ、私もまだまだもがき悩んでいかなければと考えさせられました。

そんなAさんですが、ここ2，3年は居室で過ごす時間が少しずつ増え、昨年10月下旬、大きく調子を崩され入院となりました。話し合いの末、最期は笑庵でという選択をされ、1ヶ月後再び笑庵での生活となりました。退院されて数日は、とても元気でたくさん話もされ私達を驚かせると同時に元気を貰うようでした。その後も声を掛けると瞳を動かしたり、右手で握り返されたり、だんだんと身体が思うように動かなくなっていく中でも懸命に家族さんや職員の声に応えられました。しかし日を追うごとに少しずつ目を開けておられる時間も少なくなり、12月15日、102年間の人生の幕を閉じられました。

大正という時代に生まれ、戦争を経験し、乗り越えてこられたAさんにとって笑庵で過ごされた時間はその人生のごく一部にしかすぎません。しかし最期まで自分を持ち、人生において何が大切かを私たちに示されました。「あんたも頑張りなさいよ」という激励の言葉が今改めて、胸に響きます。Aさんの力強くて優しい言葉、表情は忘れません。Aさん、本当にありがとうございました。